

## 「清智礼梅」第12集（16期生）の刊行にあたり

校長 南 和男

今の時代は、Society5.0と言われ、急速なICTの発達とグローバリズムの進展により、時代背景や主義主張、文化などが異なる世界の人々が、世界規模で起こっている様々な課題に協力して取り組んでいかなければならない時代となっています。しかし、そこには利害関係があり、価値観すら共有できない社会同志の連携が求められる状況にあり、これまでのように過去の経験値だけでは答えは見つけられず、まさに予測困難な時代となっているのが現実です。それでも我々は持続可能な社会づくりのために歩みを止めてはなりません。そこで大切になるのが、自分の意見をしっかりと伝え、相手の意見もしっかりと聞いて理解し、共感し、理性的に反論し、協働して最適解を見つけていく姿勢です。それを支える最も重要な要素が、自他を大切にする「ヒューマニズム」の精神なのです。

皆さんは5000字論文をまとめ上げることで、自分の思考を具現化し、正確に意図を伝える工夫をしました。それでも、反論や異論は出てきますし、それが当たり前です。さらに英語にし、インターネットに載せることで、世界中から意見を求めることができます。それらの意見を踏まえ、補強や改善をするところから進歩や進化は始まります。高校時代だけでは時間も知識も十分ではないでしょう、だからこそ、ここを出発点として大学を選び、持続可能な社会の構成者として将来の目標を見定めることを期待しています。たとえテーマが変わったとしても、考え方やアプローチはどのようにでも応用が利きます。探究心や豊かな感性、批判的な視点は、我々の生活を豊かにするために大切な力であり、5000字論文への取り組みは、皆さんにとってとても大きな財産となることでしょう。皆さんのさらなる成長に期待しています。